授業科目　吃音

| 【担当教員名】 | 対象学年 | 3 | 対象学科 | 言語 |
|---|---|---|---|---|
| 長澤桑子 | 開講時期 | 前期 | 必修・選択 | 必修 |
| | 単位数 | 1 | 時間数 | 15 |

【<概要>又は<一般目標：ＧＩＯ>】

吃音研究の歴史を学び主たる吃音理論やセラピー理論の根拠について考える。現在の状況を概観し、「理論と実際」の整合性又は矛盾点を知り、臨床の場で何が必要とされるかを考えるための基礎的知識的知識を重視する。セルフヘルプグループの活動や、親の思いなどに付いても考察する。

【<学習目標>又は<行動目標：ＳＢＯ>】

1．吃音を持つ人の思いを理解する。
2．「話す」ことの意味を理解する。
3．「どもること」による不利益がどんなことかを理解する。
4．吃音に関して、科学的見地から明らかになった事実を理解する。
5．吃音を持つ成人、生徒、児童、幼児、そして家族のニーズを理解し、言語聴覚士ができること、なすべきことを理解する。

| 回数 | 授業計画又は学習の主題 | SBO番号 | 学習方法・学習課題又は備考・担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーションお呼びはなす事について考える。 | | 講義 |
| 2 | オートン・トラビスの大脳半球優位説やジョンソンの診断原因説について考える。 | | 講義 |
| 3 | 研究の結果とセラピー法の変化について考える。 | | 講義 |
| 4 | バン　ライパーによる吃音重症度の方程式とセラピーにおけ る考え方を学ぶ。 | | 講義 |
| 5 | ギターやヒーリーによる最近のセラピーにおける考え方を学ぶ。 | | 講義 |
| 6 | 吃音症状のとらえ方と吃音を持つ人のニーズについて考える。 | | 講義 |
| 7 | 言語障害の専門家としてなすべきことについ える。 | | 講義 |

| 【使用図書】 | <書名>　<著者名>　<発行所>　<発行年・価格・その他> |
|---|---|
| 教科書（必ず購入する書籍） | プリントを配布する |
| 参考書 | 「ことばの治療」バン ライパー著　（田口恒夫訳）（絶版となっているがことばの教室などで所持しているのでみるとよい |
| その他の資料 | |

【評価方法】
①テスト（ミニテストを含む）
②授業参加態度（質問や意見も重視）

【履修上の留意点】
吃音のセラピーに関しては、異なった多くの考え方が存在するので、初心者にとっては、事もあるだろう。自分のとまどいとどう対峙するかを、あらかじめ考えておくことが望ま